インナー大会　プレゼン部門 2019　専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）チュウオウダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）ミウラゼミ
中央大学	商学部	三浦ゼミ

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有 ・ 無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）	PPT 内動画（有・無）	動画使用スライドページ
フリガナ）チームエフ	フリガナ）アオキフウタ	6	無	
チーム F	青木風太			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。
これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物　（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）
無

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただいております。

研究テーマ（発表タイトル）
園を越えた繋がりを～保育業界を仲間と共に生きていく～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1．研究概要（目的・狙いなど）

保育士は平成 29 年度の時点で必要な保育士の数は 46 万人に対して職に就いている保育士は 38.6 万人である。つまり 7.4 万人の保育士が国内で不足している。そこで私たちは、なぜ保育士が不足しているのかを調べることにした。労働内容の大変さや、給与面での不満などが問題であり、国の政策を調べると給与面での解決を目的とした施策を行っていることがわかった。そのことを踏まえ私たちはそのような環境でも続けられている保育士に着目することにした。保育士を続けるためには仕事のやりがいを見出すことが大切だと私たちは考えた。

そこで私たちは保育士という職業の魅力ややりがいを発見することを目的としている。

2．研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

保育士とは一般に保育所など児童福祉施設において子供の保育を行うものである。今現在日本国内において保育士が不足している。厚生労働省の調査によると平成 29 年度末の時点で国内で必要とされる保育士は 46 万人であるのに対して、実際に保育士として働いているのは 38.6 万人である。つまり 7.4 万人の保育士が不足しているということになる。そして約 9 割の都

道府県で保育士が不足おり、東京都の有効求人倍率は 4 倍を超えていることがわかった。さらに待機児童問題が深刻化しているのもあり、保育園の数が急激に増えている。しかし保育士の数は増えてはいるものの、保育園の急増には追い付いていない状態である。その原因として離職する人が多いという点が挙げられる。その理由としては給与が低い、勤務内容が多いなどといった点が大半を占める。国の政策としては、保育士給与 2%引き上げ策や、キャリアアップ制度、2 兆円政策パッケージなど給与面についての対策がほとんどであった。ICT 導入を推進し補助金を出してはいるが、実際に働いている保育士に聞いてみたところ、その政策を認知しておらず ICT についてもよく知らないという現状であった。説明してみたところ、業務内容が忙しく、新しいシステムを導入する暇がないというのが現職の保育士の意見であった。そこでこの労働環境でも働き続けている人に着目した。株式会社 eight が行った調査によると働き続けたいと思う理由はやりがいがある仕事だと感じているからという意見が一番多かった。さらに続けている保育士の 97%は仕事にやりがいを感じているという調査結果から続けていくにはやりがいの発見が不可欠だと考えた。さらに保育士は子どもの成長を感じられたときや、子どもと信頼関係を築けたときにやりがいを感じることが多いということがわかった。一般社団法人の東京都民間保育園協会の副事務局長の石井博子様に話を聞いたところ、現在保育士の労働環境は給与面も含め回復してきていた。しかし一部の労働環境が改善されていない保育園だけを報道するマスコミの影響で保育業界の世間でのイメージが悪くなっているという意見があった。保育業界のイメージが悪くなることによって、頑張っている保育士のやる気が阻害されているということがあると石井様は話した。そこで、保育業界のイメージアップとやりがいの発見を目的として協会が実際に行っているフォトコンテストについて調べてみた。そこでは保育業界のイメージアップとやりがいの発見を目的として開催されていることがわかった。しかし知名度が低いことや今後につながる要素がないことが問題点として挙げられる。

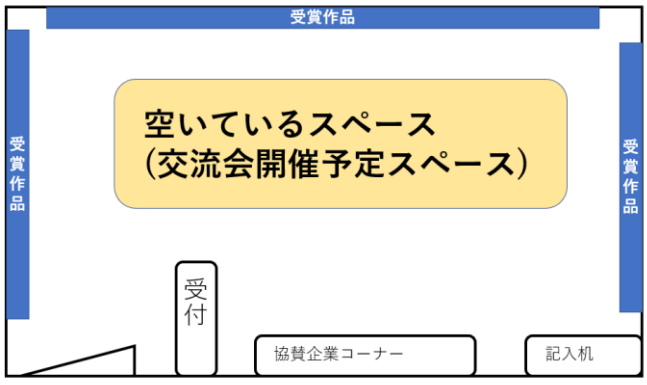
3．研究テーマの課題

私たちは保育士がやりがいを発見できてないことに問題があると感じた。やりがいを発見できてない人の要因には 3 つの外部要因と 1 つの内部要因があると考えた。外部要因はライバルがいない、モデルとなる先輩がいない、正当な評価を得られていないという点が挙げられる。外部要因としては自分が何に対してやりがいを感じるかわかっていないという点が挙げられる。この外部要因は他の人と関わらないと解決できない問題である。しかし人員不足の保育業界において同僚が少なく、ライバルを想起しづらいというところに問題点があると考えた。しかし保育園の増加に保育士が追い付いていない現代で、ひとつの保育園に同じ年の同僚を増やすことは厳しいと考える。そこで私たちは保育園の枠を越えて繋がることが大切なのではないかと考えた。自分の働いている保育園の枠を越えることによって同年代の仲間が増え今後の保育士人生をともに生きていけるのではないかと考えた。それにより離職する人が減ると考えた。緩やかだが保育士の数が増えている今、保育士不足を解決するには離職を減らすことが一番の近道だと私たちは考えた。

4．課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちの提案は就職して 5 年未満の若手保育士を対象とした交流会の開催である。ターゲットを 5 年未満に設定したのは半数以上の保育士が勤続年数 5 年未満であるということと、長く働いている人はもう既に自分の中でやりがいを確立しているという 2 点である。さらにフォト展の空いているスペースを活用することにより新たな出費を極力抑える。この交流会の目的は大きく 2 つある。1 つ目は今回のテーマでもある園を超えて保育士とつながるということである。保育士不足の今、ひとつの保育園に縛られずにもっと広い領域で職場を考えることによって、同年代で自分と同じように頑張っている仲間を増やす。そして交流をすることにより、仕事のやりがいを発見しこれからも保育士を続けていける環境づくりの助けになると考えている。2 つ目はフォト展の会場で開催することによってフォト展の知名度を上げることである。フォト展に交流会という新たな価値を加えることによって集客力を高めて、世間での保育士のイメージアップに繋がると考えた。しかし交流会は時間や場所を制限されるので忙しい保育士には負担を感じる人もいるかもしれないという実際に働いている保育士の方からの意見があった。そこで私たちはオンライン上でも繋がることができるサービスを考えた。しかし多くの人が参加できるトークルームでは色々な危険が伴い怖がってしまう可能性が

フォト展＋交流会



あると考えた。そこで個人情報を必要以上に公開しない保育士向けの SNS での交流を提案する。実名や働いている保育園名や詳しい年齢を伏せてオンラインで意見交換できるようにし、安全かつ気軽に意見を交換できるようにする。さらに実際に交流会に足を運んでくれた方には、会場に掲示してある QR コードを読み取ることにより同一のトークルームに参加できるようにし、個人的に連絡先を交換しなくても連絡できるようになる。それにより交流会のあとも繋がり続けることができると考えた。同じ保育園の人には相談しづらいことも他の園の人なら話せることも多いと考えた。そして保育士として働く同年代の人と繋がることによってやりがいを見つけられることを期待している。園を越えた繋がりを作り職場の輪を拡大し、離職を減らして保育士不足を解決することを目的としている。

5．研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは 8 月に活動を始めてから、保育士へ実際に話を聞き今の保育士の現状や問題点などを調査した。更に一般社団法人東京都民間保育園協会の副事務局長の石井博子様を始めとした協会の方々と現在取り組んでいる活動や協会から見る問題点などを話し合い、提案に活用させていただいた。実際に東京都民間保育園協会が実施しているフォト展に訪問させてもらった。更に提案を勤続年数 20 年以上のベテラン保育士や若手の保育士にしたところ、前向きでとても現実的であるという意見をいただいた。

6．結果や今後の取り組み

実際にフォト展の空いているスペースを活用し交流会の開催を目指す。まだフォトコンテストやフォト展の活動を始めたばかりということもあり運営の方々も積極的に意見を取り入れてくださるので今後実際に開催して保育士不足を解決するきっかけになればいいと考えている。私たちの意見を次回の会議に一部紹介していただけるそうなので今後も話し合いを重ねていければと考えている。

7．参考文献

・厚生労働省「 2017 年「保育人材確保のための『魅力ある職場づくり』向けて」
https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11601000-Shokugyouanteikyoku-Soumuka/0000057898.pdf
・厚生労働省「2014 年 3 月東京都保育士実態調査報告書」
http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2014/04/DATA/60o4s201.pdf
・厚生労働省「平成 25 年　保育分野における人材不足の現状 1 」
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-1160000-Shokugyouanteikyoku/0000057759.pdf
・厚生労働省「平成 29 年賃金構造基本統計調査」より抜粋
https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2017/dl/05.pdf
・株式会社 eight「2016 年 12 月保育士の働くに関する意識調査」
https://8eight8.jp/wp-content/uploads/08eabc8af37ed6a41c1f5f4ea0dc6841.pdf
・株式会社ウェルクス「2016 年 3 月アンケート調査」 <
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000052.000013773.html
・厚生労働省「2018 年東京都保育士実態調査」
http://www.fukushihoken.metro.Tokyo.jp/kodomo/shikaku/30hoikushichousa.files/430chosakekkashosai.pdf
・株式会社リクルート「2013 年から 2017 年「働く喜び」調査　5 年間の報告書」
https://www.recruitcareer.co.jp/company/vision/pdf/research_report.pdf
・厚生労働省「平成 27 年 12 月調べ 保育士等に関する関係資料」
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/s.1_3.pdf

＜企画シート作成上の注意＞

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑　ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください